



群馬県コンクール 金賞

おいしいおこめ ありがとう

みなかみ町立水上小学校 1年 関口 宏翔

ぼくのうちのおこめは、とっとりからおくられてきます。とつとりにすんでいる、おじいちゃんとおばあちゃんがつくっているおこめです。

ぼくは、ほいくえんのときにバケツでおこめをつくったことがあります。あめのひいがいは、まいにちみずをあげました。ぼくは、とつとりでおこめをつくるてつだいをしたことがあったので、ほができるまでにじかんがかかることをしていたけれど、じぶんでつくってみるとおもったよりもじかんがかりました。そのぶんおこめができるのがとてもたのしみでした。おじいちゃんやおばあちゃんもおなじもちなのかなとおもいました。じっさいにおこめができたときには、みんなでよろこびました。じぶんたちでそだてたことで、よりおこめのことをしることができました。

しかし、いつもじょうずにつくれるわけではありません。おおあめがふったとし、おばあちゃんがいました。

「いねがみずにつかってめがでてしまった。あんなにたいへんなおもいをしたのに、ことしはあまりおこめができそうにない。」と、がっかりしていました。そんなおこめがすくないとしにも、かならずおこめをおくってくれます。だから、ぼくはいつもおいしいおこめがたべられることにかんしゃしています。

ことしのなつも、とつとりのおじいちゃんはいえへいきました。おおきくなったいねのさきにほがついて、たんぼいっぱいひろがっていました。くがつのおわりにはいねかりをするそうです。たいふうがこないことをいのっています。ことしもとつとりのおいしいおこめがたべられるのをたのしみにしていきます。まいにちごはんをもりもりたべるぞー！